

令和 8 年度第 2 回南外地域協議会会議録

令和 8 年 7 月 2 3 日

南外地域協議会

令和 8 年度第 2 回南外地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■議題	3
1) 地域振興事業に関する報告について	3～6
2) 地域おこし協力隊の活動に関する報告について	7～12
■その他	12
■閉会	12
■署名	12

令和8年度 第2回南外地域協議会 会議録

■日時：令和8年7月23日（木） 16時00分

■会場：南外コミュニティセンター

■出席委員： 8名

加賀屋 由香、小松 美岐、今野 龍悦、佐々木 明、
佐々木 明子、佐渡 敏夫、佐藤 武、鈴木 均美

■欠席委員： 6名

市村 あゆみ、伊藤 賢良、伊藤 真紀子、進藤 覚、
田口 美生、高寺 衛

■出席職員： 6名

○南外支所職員

佐々木 満智子（支所長） 小松 亮（市民サービス課長）

高橋 勉（農林建設課長） 堀井 みわ子（公民館長）

菊地 明憲（地域活性化推進室副主幹）

能條 恵美子（地域活性化推進室地域おこし協力隊員）

■次第：

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

1) 地域振興事業に関する報告について

2) 地域おこし協力隊の活動に関する報告について

4 その他

5 閉会

6 署名

(16時00分 開会)

○菊地地域活性化推進室副主幹（以下「地域活性化推進室副主幹」と表記）

皆様、本日は忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから「令和8年度第2回南外地域協議会」を開会いたします。

開会にあたり、佐渡会長からご挨拶を頂戴いたします。

○佐渡敏夫会長（以下「会長」と表記）

改めまして皆さんこんにちは。今年度、第2回の地域協議会にお忙しいところ、ご参加いただきましてありがとうございます。

前回の協議会の際に、委員研修ということで大仙アカデミーにもし都合がつくようでしたら、ぜひ参加してくださいというような話があったと思いますけれども、私を含めて数人、参加させていただきました。行ってみたら前から2列目で、やばいなあと、90分どうやって過ごしたらいいかなと思って参加してみましたら、岩手県紫波町で公民連携によるまちづくりの実践者ということで、岡崎さんという方の講演だったんですが、あつという間の90分で、私、何も眠くならないで90分ああやって聴くの、生まれて初めてではないかと思うくらい良いお話で、こんなこともあるんだなと思って聴いてきました。大仙から動き出す地方創生、持続可能なまちづくりとは何かという、硬い肩書の題名だったんですが、中身がとんとん、話がうまいのか、聴かせてもらいました。終わったあとに市長と立ち話をしたんですが、もっと早く来てもらえば良かったなと、話されていたので、その位良い話だったんだなと思いました。まだまだこれから、過疎化でダメだったなと思わなくても、やることはまだまだあるんだなということを、感じてきました。

今日の議題ふたつの他に、あとで地域づくりワークショップという案件もあります。今回、午後4時からという新しい時間で試してみましたけれども、なかなか全員がうまくいくという時間はないかもしれませんけれども、出来るだけたくさんの方に来ていただいて、意見を述べてもらいたいと思います。それでは今日もよろしくお願いいたします。

○地域活性化推進室副主幹

ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。本日の出席予定員数は8名で、委員数の2分の1に達しておりますので、本会議は成立することをご報告いたします。本日の議題はその他を含めまして3件であります。また会議録作成のため録音させていただきますことをあらかじめお断り申し上げます。なおご発言の際は、挙手の上会長の指名を受けてからお願いいたします。それでは議事の進行は佐渡会長にお願いいたします。

○会長

はい。それでは協議会を始めたいと思います。この議題に入る前に、本日の議事録署名委員を指名いたします。本日は小松美岐委員と今野龍悦委員にお願いしたいと思います。よろ

しくお願いいたします。それでは議事を進めてまいりたいと思います。議題１、地域振興事業に関する報告について事務局より説明をお願いいたします。

○地域活性化推進室副主幹

それでは議題１ 地域振興事業に関する報告について、現在進行中の事業を抜粋して説明させていただきます。

はじめに、市民主導型で来月実施予定の南外盆踊り開催事業について説明させていただきます。資料１ 地域振興事業説明書をご覧ください。イベントチラシも配布しておりますので併せてご覧ください。

今回で１０回目となる南外盆踊りですが、毎年開催日を固定しており、今年も８月１６日に開催となります。

今年から、会場をまた屋外に戻し、支所駐車場に特設会場を設営しての開催となります。雨天時は、南外コミュニティセンターで開催予定です。イベント内容は、これまで同様に南外小唄や釜坂おけさの踊りがメインで、そのほかにも、地域の芸能団体などの芸能発表や、子ども縁日、キッチンカーの出店などを予定しています。

事業費の総額は２７０，０００円を予定しており、地域振興費から支出予定の補助金予算額は２００，０００円となっています。予算の内訳は、盆踊りの参加賞景品や、芸能発表団体への謝礼、舞台用ウイング車の借り上げ料となります。資料１についての説明は以上になります。

続きまして、資料２ 令和８年度南外地域彩色千輪プロジェクト事業報告をご覧ください。今年度、彩色千輪プロジェクト事業として実施している事業の進捗状況を説明させていただきます。こちら、進捗のある事業をいくつか説明させていただきます。

はじめに、地域の拠点関連施設での防災関連イベントの実施についてですが、１回目の協議会でも説明したとおり、このイベントは、１０月２５日開催の「なんがい地域祭」との合同事業として実施予定で、消防車両の展示などを予定しています。

消防署へは、西分署経由ですでに依頼済みで、はしご車の乗車体験や、新しく配備されるポンプ車の展示などを予定しています。

続いて、みんなのきょてんまつりについてですが、毎年２回ほど開催しているイベントですが、今年の１回目は１１月１４日（土）に開催予定です。１１月のきょてんまつりについては、南外中学校の３年部と合同で実施予定ですので、詳細については、この後にご説明させていただきます。

次に、地域おこし協力隊関連事業についてですが、昨年度から南外さいかい市の活動支援や、地域活性化などを目的に南外支所に地域おこし協力隊が配属されております。

今年度も、さいかい市のサポートの一環として、ＳＮＳでの活動ＰＲや視察対応などを実施しています。ＳＮＳでは、主に南外さいかい市のインスタグラムアカウントで、店舗・出張販売の告知や、ボランティアスタッフの募集活動を実施しています。

さいかい市への視察受入れについては、今年度は、昨年度と比べると減っておりますが、公的機関も含めて２カ月に１回程度は対応しており、今後も県外の市町村議会の視察なども

予定されています。そういった視察時の説明や、視察資料の作成なども実施しています。

また、隊員自身が講演の依頼を受けることもあり、そういった場で直接、自身の活動やさいかい市のPRを実施しております。先日実施した講演をきっかけにして、新たに2つの企業から広告料をいただけることになっています。

活動の詳細については、このあと、本人から自己紹介も兼ねて、報告させていただきます。次の管内保育・教育機関との連携強化については、資料3で詳しく説明させていただきます。

資料2についての説明は以上です。続いて、資料3をご覧ください。こちらの資料は、南外中学校との合同事業「地域とつながる！プロジェクト」の今年度の進捗状況をまとめた資料です。資料を開いていただくと、右側に事業ごとの写真を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

はじめに、「昔ばなしビブリオバトル」です。この事業は、昔ばなしの語り部堀井徳五郎さんが語り継いだ昔ばなしと、本を紹介するビブリオバトルをテーマにした事業で、1年生20人で取り組んでいます。

この「昔ばなしビブリオバトル」は、5つのグループに分かれて、別々の昔ばなしを題材にして、プレゼン資料を作成し、その資料を基にしてプレゼンバトルを行い「チャンピオン昔ばなし」を決めるというものです。投票集計の待ち時間には、各グループの語り手係の生徒から、グループごとに題材にしている昔ばなしを語ってもらう予定です。

右側の写真は7月に実施した2回目の授業の時の写真ですが、2回目の授業では、大仙市で昔ばなしの語り手活動をされている大仙民話の会の皆さんから、全国で徳五郎さんのみが語り継いだといわれている「長福山の山姥」などを披露いただき、語り手係の生徒の練習にもご協力いただいています。

発表資料も作業が順調に進んでおり、9月か10月頃には昨年同様に、南外小学校や健康サロンなどで、披露したいと考えています。

続いて、2年生10人が取り組んでいる「南外地域オリジナルバッジ作成事業」です。当初は、地元企業や観光資源などを題材にできないかと検討しておりましたが、使用許諾などの関係で、地域のオリジナルキャラクター「南ちゃん」や、フリー素材なども活用し、学校活動や南外地域がイメージできるようなデザインのバッジを作成することになりました。

昨年に引き続き、今年4月まで秋田市で地域おこし協力隊をされていて、現在は公立学校の美術の非常勤講師や、デザイナーとして活動している平石かなたさんを講師に迎え、アプリを活用したデザイン手法などについて学びました。

オリジナルバッジは、生徒一人一人が、個々に活用方法を考え、ひとり1作品デザインしています。写真のとおり、ほとんどの生徒がデザインまで終了している為、次回の授業では、実際に自分でデザインしたバッジをつくる作業や、完成品の配布方法などについての話し合いをする予定です。

最後に3年生11人と取り組んでいる「南外中学校 in きよてんまつり」イベント企画・運営体験事業です。

この事業は、FMはなびの運営などを行っているTMO大曲に委託し、市役所・中学校・FMはなびの三者共同で実施している事業です。3年生も、6月と7月に1回ずつ授業を実

施済みで、どちらもFMはなびの福原局長を講師に迎えて、イベント開催の目標設定や、企画内容についての話し合いなどを行っています。南外民俗資料交流館をメイン会場にし、ふるさと館やさいかい市での事業も検討中で、11月14日（土）の開催予定です。

現在、出されているアイデアは、生徒がテーマやメニューを考えるコンセプトカフェや、フリーマーケット、イベント当日の生徒によるラジオ配信などを実施予定です。

今後、イベント開催に迎えて準備を進めていきますが、生徒からは食べ物に関するアイデアも多く出されております。保健所の許可などの関係で、一から新しいメニューを作ったりすることが難しいこともありまして、南外地域出身で市内で飲食業などをされている方へ、協力していただけないか声掛けもしていく予定です。資料3についての説明は以上です。

○会長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見がございましたら挙手の上発言をお願いいたします。何かございませんでしょうか。ございませんか。

【質疑無し】

○会長

はじめに、私、質問してもよろしいでしょうか。盆踊りですが、これはぶっつけ本番でしょうか。練習会があったりしますか。

○堀井公民館長（以下「公民館長」と表記）

当日、イベントが始まってから、団体やお子さんなどでその時に練習するというように聞いています。事前に練習会を行うというのは聞いておりません。

○会長

南外小唄であれば、練習しなくても踊れそうですからね。分かりました、ありがとうございました。皆さんからもご質問やご意見ございませんか。はい、今野委員どうぞ。

○今野龍悦委員

今、ちょっと思ったんですけど。彩色千輪プロジェクト、これは南外中学校1年生から3年生まで別々の事業に取り組んでいるようですが、ミックスということは考えられないですか。例えば、3年生は受験なので、1年生を巻き込んでのミックスとか、2年生と3年生とか。それで、きよてんまつりなんですけど、中学生や子どもたちが楽しめる本の交換会をきよてんまつりでやっていただけると、例えば、読み聞かせ、子どもたちが絵本を読む、交換するというのが、神岡、西仙北、仙北がものすごく押していますが、南外はあまり目立たない感じがするので、せっかくきよてんまつりがあるので、そういうのをに入れていただけると嬉しいかなと思います。ちなみになんですけど、秋に仙北のふれあい文化センターでもお祭りがあるんです。それに関わっていて、そこでは図書館で交換会をやっているの、ここで

もやってほしいなというように思いました。

○会長

はい、ありがとうございました。館長お願いします。

○公民館長

南外地域ですと、夏休みと冬休みに小学生を対象に、工作教室をやってその後に、お話し会というのを図書館ボランティアの方から来ていただいて、お話し会というのを年2回と、あとは職員が中学校に行って、本や図書館の紹介は行っています。

○今野龍悦委員

みんなが集まるようなところでも、やってもらいたいなと思います。

○会長

はい、お願いします。

○地域活性化推進室副主幹

中学校との事業についてですが、5月には学校主導で、初めての取り組みでしたが全校でオリエンテーションを行って、今までは支所で取り組む内容を決めて、学年ごとに取り組んで貰うというような形で事業を行ってきましたが、学校側の要望もあって、今回は取り組む内容を決めるところから、生徒に関わらせたいというような話もありましたので、1回目は全校合同でオリエンテーションというような形になりました。

実際に事業を進めていく中で、ほかの学年と授業を一緒にとなると、スケジュールの調整が難しいところもあるかと思いますが、来年度以降、そういったところも踏まえて事業を進めてまいりたいと思います。

今年度については、合同での授業はありませんが、11月のきよてんまつりで、1年生の昔ばなしや、2年生のオリジナルバッジの配布なども出来ないか検討していて、学年の枠組みを超えたつながりを持たせられないか、中学校とも話し合いを行っています。

○会長

はい、ありがとうございます。今野委員よろしいですか。

○今野龍悦委員

はい。

○会長

ほかにございませんか。

【質疑無し】

ないようですので、この議題に関する話し合いは終わりたいと思います。続きまして議題2 地域おこし協力隊の活動について、事務局より説明をお願いいたします。

○能條地域おこし協力隊員（以下「能條隊員」と表記）

皆さま、こんにちは。南外支所地域活性化推進室で地域おこし協力隊として活動しております、能條恵美子と申します。本日は、このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございます。私は現在、南外地域の皆さんと一緒に、「地域の困ったを、なんとかしていこう」という思いで活動しております。

本日は、地域おこし協力隊としての活動について、お話ししたいと思います。はじめに自己紹介からさせていただきます。画面のキャラクターは、南外地域のマスコットキャラクター南ちゃんです。地元の南外中学校の生徒が考えたキャラクターだそうです。

私は、大仙市神宮出身で、高校卒業後に上京し、金融機関や会計事務所、医療事務、エステサロンに勤務してきました。

そして昨年の4月、42年振りに神奈川県川崎市から地元に戻り、大仙市地域おこし協力隊に着任いたしました。昨年の3月迄は会計事務所に勤務、休日はエステサロンで仕事をし、お客様から「ありがとう」や「気持ちよかった〜」「きれいになってうれしいー」のお言葉をいただけることがとてもうれしかったです。性格は、人前に出るのがあまり得意ではなくて、どちらかというと、前に立つよりも影で支える方が性に合っています。ただ、地域の皆さんと関わる中で、普段から「まんずやってみるべ」と背中を押していただきながら毎日活動しております。

はじめに、私が「地域おこし協力隊」になったきっかけをお話ししたいと思います。この写真は、移動販売の途中で撮影した南外の写真です。上京してからは、年に一度ほど帰省していましたが、そのたびに人口減少で地元が少しずつ寂しくなっていく様子を感じていました。

また、一人暮らしの母のことも気がかりだったことから、地元で何かできることがあればという気持ちは以前からありました。60歳を迎えたことを機に、自然豊かな暮らしや野菜作り、伝統的な漬物やお菓子作りにも挑戦したいと考えるようになり、南外の地域おこし協力隊に応募しました。年齢への不安はありましたが、「後悔しないように、一歩踏み出してみよう」と思ったのです。生まれ育った地域に少しでも貢献できればという気持ちが、今の活動の原点となっています。

これまでわたしが地域おこし協力隊として携わった活動を紹介させていただきます。協力隊の活動、あきたふるさと手作りCM大賞、今後の課題・目標の順番でお話しさせていただきます。

私が行っている主な活動内容は、ひとつ目が「NPO 法人南外さいかい市」の活性化や持続可に向けたサポート、ふたつ目が「高齢者向けコミュニティサロン」などの事業に関する提案や企画、三つ目が店舗限定グルメ、地域の農作物や山菜などを活用した新規特産品の開発、

そして、四つ目が南外地域の行事や各種事業の企画運営及びPR活動です。

今年からさいかい市にWi-Fi環境が整ったことで、クラウド会計システムを導入し、現在は複数のスタッフが会計業務を行えるように体制づくりのサポートをしています。その他には、Instagramの発信やPOPの作成、新規出張販売やマルシェなどの出店をしています。仕入れ先の拡充にも取り組んでおり、現在の商品の仕入れ先として生活協同組合に加え、新規の取引先として、株式会社まるしめ、美郷町の有限会社ミサトフーズAX六郷店からも商品を仕入れることが出来るようになりました。

有限会社ミサトフーズからは、今利用している生活協同組合と同様に委託販売という形で、対応をしていただけるとのことになり大変助かっております。2社とも、さいかい市の活動にさまざまな形で ご協力いただいております。感謝しております。

商品PRでは、POPやチラシを添えることで、これまで手に取っていただけなかった商品が売れるようになることがあります。また、「さいかい市で売上NO.1」といったPOPでアピールすることで、試しに買ってみようと思っただけのきっかけにもなりました。

1度購入していただいた方から、「美味しかった〜」とリピートもしていただけるようになりました。今後も、そうした工夫を重ねながら、お客様が興味を持ってくださるチラシや配信をしたいと思います。

こちらは、昨年度までのさいかい市での活動状況の写真です。店舗での仕入れや販売、商品管理。毎週月曜日、通院支援の待ち時間を利用した大曲厚生医療センター前出張販売や、第2・第4木曜日は大仙市役所本庁前で出張販売をしています。南外の新鮮な野菜や山菜、手作りのお菓子・惣菜は大好評です。右上の写真は、フォーシーズンでのハロウィンマルシェの出店で、お母さんたちの手作り品と、さいかい市のお菓子を出品しました。普段さいかい市の店舗ではなかなか手に取っていただけない商品も、お客様の目に触れ喜んで購入していただきました。左下の写真は、買い物が困難な方へ、移動販売車で自宅前まで伺い、体調や困りごとなど伺いながら販売している様子です。何気ない会話が楽しみです。

下の真ん中の写真は、毎週水曜日、特産品のクッキー作りのお手伝いをしています。バターたっぷり黒豆入りの大人気のクッキーです。週末には売り切れることが度々です。

右下の写真は、出張販売にお出しする惣菜づくりのお手伝いをしています。味はお墨付きで値段も安いことから、こちらもすぐに売り切れてしまいます。

こちらは、80代以上の高齢者向け食事付サロン「どやぐのたまり場」（仲間の集まり）の様子で、食事づくりなどのサポートをさせていただいています。

栄養のある食事をみんなで楽しく食べ、会話を楽しみながら、レクリエーションで笑い合う。そんな“集まる楽しみ”を大切にしたい、さいかい市の思いから生まれたサロンです。

「ひとりで食べるより、みんなで食べると美味しいな〜」「ここに来るのが楽しみ」そんな声とともに見せてくださる皆さんの笑顔が、本当に素敵で、私たちの元気にもつながっています。地域の中で支え合いながら、これからも安心して集える居場所づくりのお手伝いをさせていただきます。

毎月開催している「南外さいかい市健康サロン」で、私がこれまで携わってきた美容に関する経験を活かして、70代から90代の方を対象にしたお肌のお手入れレッスンを行います。

した。会場は終始笑い声が絶えず、まるで少女に戻ったような明るくにぎやかな雰囲気でした。レッスン後は私がメイクアップをさせていただき、ますますお綺麗になり、「どごさがよっていがねばな〜」とルンルン気分で帰られる姿がとても印象的でした。いくつになっても「綺麗になりたい」という気持ちは、人と会いたい、外に出かけたいという前向きな気持ちにつながります。綺麗になることは、高齢者の皆さんにとっても、自分らしく元気に暮らしていくための大切な力だと感じています。今後も地域の皆さんと交流できるイベントで、活動を広げていきたいと思います。

こちらは、店舗限定グルメや地域の農作物や山菜などを活用した新規特産品の開発として、現在取り組んでいるピクルスの試作品です。商品化に向けてピクルス製造業の講座を受講中です。南外産の規格外でも味の良い地元野菜なども活用し、商品に加工することで付加価値を付け、販売につなげ有効活用していきたいと考えています。地元農家の皆さんを応援できるように準備を進めていきます。

こちらの写真は、さいかい市スタッフの皆さんと、JA岩手産直来夢くんに視察に行った時のものです。こちらの直売所は、野菜や果物は安価ではないものの産直ならではの新鮮さや種類の豊富さで魅力的だと思いました。その他特産品として漬物やお菓子などもあり、冬の間でも販売できる特産品があれば、収益を出すこともでき、皆さんとふれあう機会や、やりがい、心身の健康にもつながると思います。さいかい市に地元の野菜を出品しても売れ残ってしまうことが多いので、新鮮なうちに加工することや出張販売をするなどして、地域の皆さんの野菜を作る生きがいをづくりを行いながら、収益につなげたいと思います。視察終了後は、購入してきた商品で楽しい試食会を行いました。

今年の2月28日に、南外民俗資料交流館、南外ふるさと館、南外さいかい市の3施設で開催された「NEW きよてんまつり」に参加させていただきました。私は、パーソナルカラー講座と塩麴づくり講座のワークショップを担当しました。参加された皆さん同士の会話も弾み、発見や学び、美味しさを楽しみながら、自然と笑顔が広がるワクワクいっぱいとなりました。

こちらは、南外地域にある出羽鶴酒造株式会社で、秋田大学益満ゼミの皆さんと、酒米づくりから販売まで取り組んでいる日本酒「宵の星々」の原材料となる酒米の種まきから稲刈りまでの貴重な体験をさせていただいたときの写真です。これは「農業と食」による地域活性化事業の一環として行われている取り組みで、こうして地元のお酒づくりのお手伝いをさせていただくと、「この美味しさをもっと多くの方に知ってほしい」「友人たちにもぜひ飲んでほしい」という気持ちになります。実際に秋田へ遊びに来てくれた友人には、秋田のお料理と一緒に日本酒を楽しんでもらっていますが、「やっぱり秋田は美味しいお酒がたくさんあるね」と飲み比べを楽しんでくれて、秋田の魅力を感じてもらっています。

昨年の南外中学校と支所との合同事業では、1年生が南外出身の語り部・堀井徳五郎さんの語り継いだ昔話を「昔話かるた」にして、まちづくりにつなげる授業に参加しました。元大仙市地域おこし協力隊で、イラストレーターの岡田智美さんのイラスト講座では、生徒たちの絵が一気に上達し、読み札もなまりがきいて味わい深い仕上がりになりました。完成したかるたで地域のおじちゃんおばちゃんや小学生たちとかるた大会をすると、大盛り上がり

でした。昔話が生徒たちの心にしっかり受け継がれた時間でした。

2年生の皆さんとは、私と同じく現役の協力隊員の明石さんの「デザイン講座」の授業を受け、昨年9月6日に開催された「あきた元気ムラ大交流会 2025in だいせん」で、5月から約4カ月をかけて、生徒と協力隊で協力しながらCM、POP、チラシ、ポスター作りなどに取り組み、模擬店舗「南外ミニさいかい市」を出店しました。

当日は生徒によるInstagramの動画配信などの積極的なPRもあり、さいかい市のスタッフとも連携しながら販売を行い、終始お客さんが途切れず大盛況でした。

地域の人と協力し合い、学び合う中で、生徒たちの表情には自信と笑顔があふれ、会場全体に温かい活気が広がった一日でした。

3年生のみなさんとは、「南外の魅力」を自分たちの目線で再発見し、発信していく授業と一緒に取り組みました。今年の4月まで、秋田市で地域おこし協力隊として活動されていた平石かなたさんを講師に迎え、「ミニコミュニティ誌ZINE（ジン）づくり」に取り組みしました。三つのグループに分かれて、地域に関連して気になるテーマや、好きな場所について話し合い、取材や質問も積極的にチャレンジしてくれました。「あ、こんな魅力もあったんだ！」と、楽しみながら地元を見つめ直す姿がとても印象的でした。完成したZINEは見開き4ページとは思えないほど、個性たっぷりの素敵な作品ばかりでした。地元をもっと好きになる、そんなきっかけの時間になったと思います。

南外小学校2年生のみなさんとは、さいかい市の手作りクッキーと一緒に作りました。以前、さいかい市の加工所を見学した際に「自分たちも作ってみたい！」という声上がり、その想いが実現した体験でした。生地を混ぜる作業は大変そうでしたが、協力しながら手際よく成形し、焼き上がったクッキーを「おいしい！」と嬉しそうにほおぼっていました。子どもたちの笑顔を通して、地域とさいかい市の温かいつながりを改めて感じた時間でした。

人口減少が続いていますが、南外の小学校や中学校では地域の伝統や文化を授業に取り入れ、地域の方々との交流を大切にしています。子どもたちにとって地域の人と触れ合いながら学んだ時間や、南外の風景、行事、温かな人のつながりは、大人になって心にも残る大切な思い出になると思います。そして、ふるさとを離れても「南外で育ってよかった」と感じられることが、地元の愛着や誇りにつながっていくことと思います。

このほかには、昨年の4月以降、さいかい市への多数の視察受け入れに加え、取材もありました。大学関係者による視察や、さいかい市の健康サロンでのインターン受け入れなども行われ、地域内外からの関心の高まりを強く感じました。さいかい市は、南外で開催されるさまざまなイベントに参加し、地域を盛り上げる活動も行っています。私もその活動に携わり、お手伝いをさせていただきました。また隊員として、新聞取材やラジオ出演の機会をいただき、さいかい市の取り組みを多くの方に知っていただくことができました。実際にお店に来られたお客様から「新聞を見たよ」「ラジオを聞いて来ました」と声を掛けていただき、紹介した「さいかい市クッキー」を購入していただいたことは、大変うれしく、活動の手応えを感じる出来事でした。さらに、昨年に食品衛生責任者の修了証をいただきましたので、さいかい市の活動に役立てたいと思います。

昨年、南外さいかい市をテーマにした大仙市CMがあきたふるさと手作りCM大賞で査

員特別賞をいただきました。秋田朝日放送で流れているので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。こちらのCMは広報広聴課所属の協力隊員、明石さんが製作しました。さいかい市の想いが伝わる作品だと思います。実際にご覧いただきたいと思います。

【CM動画視聴】

今、映像でご覧いただいたように、移動販売車は雨の日も雪の日も、暑い日も寒い日も、山あいの地域を走り続けています。その先には、「今日も来てくれるかな」と待っていてくださる方々がいます。しかし、この取り組みを続けていくためには、車両の維持費や燃料費、人手不足など、さまざまな課題があります。

さいかい市は、買い物支援だけではなく、高齢者の見守りや交流、生きがいつくりなど、地域に欠かせない役割を担っています。その一方で、活動を支えるスタッフの高齢化や人手不足が進むと、ボランティアだけで運営を続けることは次第に難しくなります。多くのNPOでも、ボランティアは大切な力ですが、継続的な運営には資金や人材の確保が課題とされています。

現在のさいかい市は、多くのボランティアスタッフの皆さんに支えられていますが、高齢化により人材不足が課題となっています。そのため、協力隊の活動として、人材確保と安定した資金づくりを進め、持続可能な運営体制を築くことを目標としています。企業との連携や協賛、商品開発、出張販売、イベントなどを通じて収益を生み出し、その収益を活動に還元することで、人と資金が循環する仕組みをつくり、次の世代へ活動をつないでいきたいと考えています。現在は、スタッフ募集やSNSでの情報発信、企業への協賛依頼、クラウド会計システムの導入による業務の引き継ぎ、小・中学校では、学校と行政で「地域とつながるプロジェクト」として、生徒たちが地域のことを学びながら、南外の伝統や魅力を知る授業に参加させていただいています。

また、地域の皆さんや高齢者のサロンで楽しく交流できるワークショップも企画し、地域の活性化につなげていきたいと考えています。協力隊として1年3か月が過ぎ、多くの方々に支えられながら活動を続けることができました。残りの任期も、南外地域全体がより元気に安心して暮らせるよう活動していきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

○会長

はい、ありがとうございました。せっかくの機会ですので、ご質問等ありましたら挙手のうえ、発言をお願いします。はい、佐藤委員。

○佐藤武委員

私、いろいろな所に行くときに、こんぶ屋酒店で出羽鶴のお酒と、自家製のいぶりがっこチーズというのを持っていくんですけど、早くピクルスを商品化して販売して欲しいなと、それを持っていきたいと思います。ピクルスを販売している所って少ないと思うので、出来

たらずひ買いに行きたいと思いますので、よろしくお願いします。

○能條隊員

ありがとうございます。以前、秋田農販さんが作っていたようすけれども、こちらで販売していなかったようですので、商品化に向けて頑張りたいと思います。

○会長

貴重なご意見ありがとうございました。ほかに、どなたかございませんか。皆さん、すばらしい活動報告で感動してしまって、主役（CM）の佐々木明委員が一番最初に映像に出てきて、素晴らしい中身でした。ありがとうございました。それでは、時間も大分経ってきましたので、その他に入りますが、その他につきましては事務局の方から何かございましたらお願いいたします。

【その他案件なし】

ないようですので、それでは議題に対する説明等はこれで終了して、今回は、地域づくりに関するワークショップを予定しているようですので、事務局より説明をお願いします。

【地域づくりワークショップ実施】

それでは本日の会合はこれで終わりたいと思います。

次回の会合は、9月下旬を予定しております。詳細は、後日事務局を通じてお知らせいたします。

これをもちまして令和8年度第2回南外地域協議会を閉会いたします。お疲れ様でした。

（17時40分 閉会）

南外地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

小 松 美 岐

今 野 龍 悦
